



道標ない旅

自分も人も大切に
～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～

◆◆ 中休み、昼休みの遊び（運動中）において、コロナ対策より熱中症対策を優先します。 ◆◆
サッカーや、バスケ、追いかっこなどにおいて、マスクは着用しなくても良いことに致しました。熱中症対策重視と致します。口中のしぶき等が心配な児童は、自衛策として適宜マスクをうまく組み合わせて下さい。

◆◆ 7月の予定を紹介致します。 ◆◆

令和2年			7月行事予定		授業時数							
日	曜日	週	校内行事		1年	2年	3年	4年	5年	6年	60	モ
1	水	B週	放課後サポート教室		5	5	5	5	5	5	●	○
2	木		朝の集い（月目標）		5	5	5	6	6	6		
3	金				4	5	5	5	5	5	●	○
4	土											
5	日											
6	月	A週	身体計測(3年) 委員会活動②		5	5	5	5	6	6	●	
7	火		身体計測(4年) S C来校		5	5	6	6	6	6		○
8	水		身体計測(5年)		5	5	5	5	5	5	●	○
9	木		身体計測(6年) 朝の集い(校長)		5	5	5	6	6	6		
10	金		1回目引き落とし日		4	5	5	5	5	5	●	○
11	土											
12	日											
13	月	B週	クラブ活動①		5	5	5	6	6	6	●	
14	火				5	5	6	6	6	6		○
15	水				5	5	5	5	5	5	●	○
16	木		S C来校・スクールソーシャルワーカー来校		5	5	5	6	6	6		
17	金			4	5	5	5	5	5	●	○	
18	土											
19	日											
20	月	A週	心電図検査（1年）		4	5	5	5	5	5	●	
21	火		P T A 運営委員会		4	5	5	5	5	5		○
22	水				4	5	5	5	5	5	●	○
23	木		海の日									
24	金		スポーツの日									
25	土											
26	日											
27	月	B週	2回目引き落とし日		4	5	5	5	5	5	●	
28	火				4	5	5	5	5	5		○
29	水				4	5	5	5	5	5	●	○
30	木				4	5	5	5	5	5		
31	金		サポート教室終了 給食終了日 終業式		4	4	4	4	4	4		○

今年の7月予定は、コロナ禍の影響下、例年と大きく異なります。7月20日以降も授業があり、終業式は7月31日となります。本来夏休みだった夏の授業は、1日5時間が最長で、6時間目は設けません。1年生は毎日4時間までとなります。8月1日から低学年は3週間、それ以外の学年は、2週間の夏休みです。こんな日が来るとは想像もしていませんでしたが、熱中症に注意しながら安全な学校運営に努めたいと思います。

7月は、放送集会の形で、朝の集いを2回予定しています。校長集会を楽しく聞いてもらうために何か工夫ができないか考えてみます。児童の皆さんの目の前で、生のサイエンスショーができる日が早く来ることを願っています。

S Cさんが3回来校されます。ご相談のある方は教頭へ電話でお伝え下さい。

P T A 運営委員会が21日に開かれます。ご挨拶を直接したことがないので、校長として皆さまに挨拶できるこの日も重要です。今年の活動についての確認があると考えています。

◆◆ 留守電設定時間を戻します。 ◆◆

前号（第9号）の最後の記事で、「午後6時に設定していた開始時間を6時15分に変更し、午後6時15分～午前7時45分と変更致します。」と、お伝えし、実際に変更しております。変更した理由は、私が南郷中学校長を務めていたとき、部活指導を6時に終えた先生が、小学校に連絡をとろうとすると、既に留守電になっていて、一向に連絡がとれないと口にする場面を何度か見てきたからです。長柄小の先生方に伝えたところ、それならばと時間変更賛同いただいたので、変更いたしました。

ところがこれは、勇み足でした。「留守電設定時間6時から……」は、町全体の申し合わせ事項で、1校だけ変更するわけにはいかなかったのです。

大変申し訳ありませんが、設定時間を午後6時から午前7時45分に戻しますので、何卒ご理解頂きたく存じます。お騒がせしてしまったことお詫び申し上げます。

◆◆ 重要!! 集金方法のお知らせとお願いです。 ◆◆

今年度より、教材費等を現金で集金することをせずに、給食費の引き落とし口座からの引き落としとさせていただきますことになりました。1学期教材費の1回目の口座引き落とし日は7月10日です。お忘れのないようご対応いただくと幸いです。引き落とし期日までに指定口座に入金をお願いいたします。

◆◆ 長柄小サポート学習教室の月・火担当の、学習支援ボランティアをお願いしました。 ◆◆

町内小学校で長らく活躍されていたのでご存じの方もいらっしゃるかと存じますが、馬淵先生が指導員としてボランティア支援に参加して下さいました。

◆◆ 修学旅行は町内統一で中止となりました。 ◆◆

6年生にとっては、大変楽しみにしている旅行的行事ですし、日光東照宮をはじめとした寺社の世界遺産や滝や湿原など雄大な自然に触れることは、6年生にとって大切な経験だと考えていました。“楽しみにしていることを経験させてあげたい”という方針と、“命と健康”という異なる方向の方針で、校長会も真剣な論議を重ねてきました。東京の例を見ても分かる通り、依然として50～60人の発症が継続しており、学校を含む職場内や家族内クラスターでの発症が指摘されていることも事実です。このことを受けて、最終的には“命と健康”を第一の柱に中止の決定を下しました。その主たる理由は以下の通りです。

- ①「修学旅行実施時期に、新型コロナウイルス感染リスクがゼロになっている（有効なワクチン・治療薬が一般化する）可能性は極めて低い。」
 - ②「修学旅行行程において三密（車内・旅館内・見学地・食堂等）を上手に避けることは難しい」
 - ③「修学旅行実施日直前に校内に感染者が発生し、修学旅行が中止になる可能性がある。その際、感染者に対する誹謗・中傷が発生させないという、かなり難しいミッションを達成する必要がある。」
 - ④「修学旅行中に感染が判明する可能性がある。同じ学校の児童・教職員は「濃厚接触者」となるので、帰りの修学旅行専用列車は利用できない。帰りのバス又は待機する宿泊場所が用意できるか確証が持てない。」
- 児童には校長からきちんと説明し、リスクのより低い何らかの代替行事を用意してあげたいと思っております。

◆◆ with コロナ時代ってどういう意味でしょう。参考になる知見録を見つけました。 ◆◆

『with コロナ時代のトレンド “開疎”な未来を考える』 慶應義塾大学教授で、ヤフーCSO 安宅和人氏の知見録を読みました。同じ指摘を日曜日朝のサンデーモーニングの番組最後でも扱っていました。一つの考え方として大変重要な要素があると思いますので、要約してお伝えします。ご興味のある方はお読み下さい。

『with コロナ社会は、当面続くと思った方がいい。日本はともかく、世界規模で起こっている混乱が、あと数ヶ月で落ち着くと言うことは考えにくい。突然毒性が弱まる可能性は低く、物理的な封じ込めができないとすると、本質的な解決策は2択しか考えられない。「①集団免疫を獲得する、②特效薬を開発する」、である。ワクチンについては現在開発候補品が100以上あるとされているが、楽観的なシナリオでも実用化は来年以降のことと思われる。自然感染に任せる場合について考えると、入院が必要な重症化率を2%とし、感染症病棟(約30,000床)のキャパいっぱいに対応し続け、人口の70%までの免疫形成を図ろうとすると、日本国内だけでも計算上2年はかかる。

つい100年前までヨーロッパでは7人に1人は結核でなくなっていた。日本では1940年代になっても死因の第一位は結核であり40年位前までは日本中に結核隔離病棟があった。つまり、伝染病と共に生きる時代は社会は突然誕生したのではなく、われわれは再び病原菌、ウイルスと共に生きる時代に戻ったに過ぎない。

感染症と共に生きるという前提で今後を考えるとしたら、

- ①密閉→開放
- ②高密度で人が集まって活動→疎に活動
- ③接触→非接触
- ④物以上に人が物理的に動く社会→人はあまり動かないが物は物理的に動く社会

の4つの方向性を考えなければならないと思われる。この②と③はかなり束ねることができるので「開放×疎」に向かう、すなわち「開疎化」と言うかなり強いトレンドが生まれると言うのが見立てである。

都市的な空間に資源と人が集中し、人間は長らくその恩恵を享受してきた。少なくとも5000年は、この「密閉」に向かうマイクロトレンドが続いてきたと考えられる。ただ、中世のペストや100年前の結核やスペイン風邪などの伝染病が蔓延した頃から分かっていたことだが、都市は病原体、特に感染症にはめっぽう弱く、学校・オフィス、軍隊、工場のような人が集まる場所が、細菌の温床となってきた。「密閉空間」は行き詰まっているのである。「いつになったら元通りの(=密閉の)状態に戻れるのか」「(そこに戻るために)自分たちはどうしたらいいのか」と毎日のように尋ねられるが、「開疎」というトレンドに沿って考える力が、今私たちに問われているのではないかと思う。

2019年7月に発表された「2100年の天気予報」と言う環境省の予測では、有効な温暖化対策が取れなかった場合、夏には全国各地で気温が40度を超え、風速90メートル級のスーパー台風がやってくるだろう、と予想されている。風速90メートルとは家が倒れる速度である。勧告通りの抑制に成功しても、荷物を積んだトラックが倒れるレベルの風速70メートルの台風が予測されている。それだけではない、あと数十年のうちに北極海の氷は一度は溶けきると考えられているが、さらにシベリアの永久凍土も溶けたら、今まで眠っていたウイルスや細菌が表に出てくる可能性は高い。その時われわれはもう一度、様々な伝染病の危険にさらされるであろう。その中には、毎年大陸方向から舞ってきて始まるインフルエンザのように、空気感染するものもあるだろう。一過性の辛い時期と考えるのは少々甘いだろうと言うことである。この機にいずれ来る変化に備えて、できる限りの刷新を図るべきである。』

・・・大変示唆的な指摘ではないでしょうか。私たちは「密閉」にいつ戻れるのだろうかと考えてしまいがちですが、5000年続いたその考え方を大きく変えるときが来たのでは？と言われているのです。通勤しないリモートワークがトレンドになれば、都市集中のスタイルは様変わりする可能性は確かに感じます。実際、永久凍土が溶け始めたニュースが入ってきています。真剣に受け止める必要があると思います。